

# マザー・グースに現れる動物名

池 田 広 昭

## Animal Names in Mother Goose Nursery Rhymes

Hiroaki IKEDA

### Abstract

About 1,150 Mother Goose nursery rhymes have been investigated to find out what types of different animal names are contained in them and how frequently they are used. The results are presented with some comment.

### 1. は じ め に

動物抜きでは Mother Goose は成り立たない。それほど Mother Goose と動物の結びつきは深い。以前 Mother Goose に登場する植物について調べたことがある<sup>1)</sup>が、その時に比較のために動物についてもおおよっぱに調べてみた。それによれば調べた Mother Goose の唄のうち 40% 近くに動物が登場する。植物の登場する唄は全体の 24% 位であったから Mother Goose にとっての動物の重要さがうかがえる。そこで、Mother Goose に登場する動物の種類と頻度を調べ、Mother Goose の動物観、そして英国人の動物観を知るひとつの手掛かりとしたい。

### 2. 資 料

Mother Goose は伝承童謡であるからその全貌を知ることとはもとより不可能である。そのおおよその傾向を知るにとどめざるを得ない。

代表的な童謡を数多く集録してある Iona and Peter Opie 夫妻編 *The Oxford Nursery Rhyme Book*<sup>2)</sup> とこの本を含む他の代表的集成から編んだ宮川幸久・外山滋比古編 *A Handbook of Nursery Rhymes*<sup>3)</sup> との 2 冊の伝承童謡集を調査対象とすることにする。

両書に収められている童謡があわせていくつあるかということを知っておく必要があるが、実際のところ正確な数は出しにくい。非常に似た童謡があり、それ

を同じとするか違うとするか判断に迷うものがあるからである。なかには 1 語しか変わらないものもある。また、ことは使いは違うが発想と展開が同一と考えられるものもある。これらのものをどう扱うかで合計集録数が違ってくる。したがって概数が有効である。両方あわせておよそ 1,150 の伝承童謡が収められているとしておくのが良いであろうと思う。

### 3. 方法と方針

*The Oxford Nursery Rhyme Book* と *A Handbook of Nursery Rhymes* の Text の原文によりそこに見いだされる動物名を拾い出すことにした。*A Handbook of Nursery Rhymes* は 2 分冊よりなり、そのうちの 1 冊が Text、もう 1 冊が Concordance である。しかし、Concordance は確認以外の目的には使用しない。今挙げた 2 冊に集録されている英国の伝承童謡にどのような動物名が何回使用されているか調べることを主たる目的とするが、その際次のような方針に従っている。

一、ここで言う「動物」とは四つ足動物に限らず、鳥類、爬虫類、両生類、魚介類、昆虫、その他をも含む広い意味での動物を指す。

二、たまたま人名として使われている動物名は採らない。ただし、動物の擬人化されたものは採る。

三、雖しことばに動物名が現れる場合、動物名として採ってある。

四、動物の鳴き声で動物名の代用としているものがあるが、これは採ってある。ただし、明らかに擬声的に動物の鳴き声だけしか表していないものは採らな

い。

五. Beef, mutton など動物の食用に供される肉の  
みを指す名詞は数えない。ただし、肉を表す語が動物  
を表す語に転用されているものは採る。

六. 動物名の出現頻度は2つの観点から数える。ひ  
とつは、dog なら dog という語が使われている唄がい  
くつかあるという観点。もうひとつは、同一の唄に dog  
という語が2回以上現れた場合(10回以上現れる例も  
少なくない)、それぞれを1回と数え、約1,150の  
Mother Goose に全部で何回 dog という語が使われて  
いるかという観点である。簡単な例を挙げると、

Bow, wow, wow,

Whose dog art thou?

Little Tom Tinker's dog,

Bow, wow, wow. (83)<sup>4)</sup>

という唄には dog という語が2回現れる。この場合、  
dog という語が使われている唄の数としては1であ  
り、dog という語が全部で何回使われているかといえ  
ば2である。

#### 4. 結 果

ある動物がいくつかの唄に現れるかという観点をその  
動物が全部で何回現れるかという観点より重視し、  
もっとも多くの唄に現れる動物から少ないほうへと順  
に動物名と唄の数、その動物名が使われた回数の合計  
を以下に示す。唄の数はカッコのない数字で表示し、同  
一の唄という枠をはずしたときその動物名が何回使わ  
れたかはカッコ付の数字で表示する。ただし、両者の  
数字が一致する時はカッコ付数字は省略する。同一頻  
度のものが複数存在する場合はアルファベット順に並  
べてある。また、英語のひとつの特色として、同じ種  
類の動物でも雌か雄か、幼いか成熟しているかなどに  
よってまったく別の名称を持つものが多い。こういっ  
たものはひとまとめにして扱うことにし、一番意味の  
広いものでその種を代表させる。そしてその他はその  
内訳を示すことにした。たとえば、ネコは cat, kitten,  
pussy など様々な名で呼ばれるがもっとも意味の広い  
cat を代表として見出しにし、その内訳として cat 何  
回, kitten 何回, pussy 何回などと表す。内訳の部分は  
全体をカッコでくくって内訳であることを示す。

動物の擬人化の現れとして動物名を大文字で書き始  
めたものが多数見られたが、大文字にするしないは編  
者(資料として使った2冊の集成の编者とは限らず、そ

れ以前の编者の可能性も大である)の恣意によるもの  
と考え、ここでは少数の例外を除いて小文字に統一し  
てある。

英語の動物名には対応する日本語名または説明を付  
けてあるが、動物学的正確さは持たない。伝承童謡自  
体が動物学的記述を目的としたものでない以上、登場  
する動物が厳密に学問的に何を指すのかははっきりしな  
い場合があるのは避けられない。ただし、できる限り  
正確さを期すようにところがけた。

Bird や fish など指示する範囲の広い語も参考まで  
にリストに入れておく。

cat ネコ .....85, (208)

cat	ネコ	.....43, ( 80)
pussy	日本語の「ねこちゃん」, 「にゃんこ (ちゃん)」などに相当する幼児語	.....12, ( 20)
pussy cat	pussy と同義	.....10, ( 18)
kitten	子ネコ	..... 8, ( 21)
puss	pussy と同義	..... 3, ( 4)
kit	kitten と同義	..... 2, ( 4)
baudron	スコットランド方言。ネコ, 子ネコ	..... 1, ( 3)
cattie	cat の幼児語	..... 1
kitty	子ネコ。幼児語で「にゃんにゃん」, 「にゃんこ(ちゃん)」などに相当する	..... 1, ( 45)
poussie	pussy の別形	..... 1, ( 6)
pussie	pussy の別形	..... 1, ( 2)
pussicat	pussy cat の別形	..... 1, ( 2)
wussicat	ことば遊びによってできた語と考 えられる	..... 1, ( 2)

horse ウマ .....68, (100)

horse	ウマ	.....47, ( 72)
mare	雌ウマ	..... 9, ( 13)
nag	小ウマ。口語で、ウマ	..... 4
colt	雄の小ウマ	..... 2, ( 3)
dun	川原毛(月毛)のウマ	..... 1, ( 2)
foal	ウマ(ロバ, ラバ)の子, 子ウマ, 雌の 子ウマ	..... 1
filly-foal	雌の子ウマ	..... 1
gail	ウマのことと推測される	..... 1
long backed gray	灰色のウマ	..... 1
naggie	nag の幼児語	..... 1, ( 2)

## pig ブタ .....63, (120)

pig	ブタ	.....39, ( 93)
hog	家畜化されたブタ, 特に去勢された雄ブタ	..... 6
swine	pig の動物学的, または, あらたまった言い方	..... 6, ( 7)
sow	成熟した雌ブタ	..... 5, ( 6)
pig-hog	hog のこと	..... 2
piggy	口語, 幼児語。子ブタ, ブーちゃん, ブーさん	..... 2
boar	去勢していない雄ブタ	..... 1, ( 2)
boar pig	boar と同義	..... 1
sow pig	sow と同義	..... 1

## dog イヌ .....62, (145)

dog	イヌ	.....45, (121)
hound	獵犬	..... 4
cur	のらイヌ	..... 2
greyhound	グレーハウンド	..... 2
puppy	子イヌ	..... 2, ( 9)
barking bow-wow	幼児語。ワンワン (ちゃん), ワンちゃん	..... 1
bow-wow	幼児語。ワンワン, ワンちゃん	..... 1
doggie	幼児語。ワンちゃん	..... 1
poodle dog	プードル犬	..... 1
puppy dog	puppy のこと	..... 1
spaniel	スパニエル犬	..... 1
talbot	タルボット犬	..... 1

## cow ウシ .....52, ( 98)

cow	雌ウシ	.....29, ( 56)
calf	子ウシ	..... 9, ( 12)
bull	雄ウシ	..... 8, ( 11)
ox	去勢された雄ウシ	..... 6, ( 19)

## chicken ニワトリ .....40, ( 76)

hen	メンドリ	.....18, ( 42)
cock	オンドリ	.....11, ( 20)
chicken	総称としてニワトリを表すこともあるが, 一般的にはヒヨコのこと。今回調べた用例はすべてヒヨコを指している	..... 5, ( 7)
chick	ヒヨコ, ヒナ	..... 1, ( 2)
cockadoodle	コケコッコーさん	..... 1
cockalorum	雄の若鶏みたいにいばっている小男。オンドリが含まれているので採った	..... 1

doodle doo	コッコーさん	..... 1
pullet	若いメンドリ	..... 1
rooster	家畜となっているオンドリ	..... 1

## bird 鳥 .....39, ( 58)

bird	鳥	.....35, ( 51)
fowl	家禽。詩語または古語で鳥一般を指す	..... 2
dicky bird	幼児語で小鳥のこと	..... 1
birdie	幼児語で小鳥	..... 1, ( 4)

## mouse 小型のネズミ。イエネズミ, ハツカネズミなど .....35, ( 50)

mouse	同上	.....32, ( 44)
mousey	幼児語。ネズミさん	..... 1, ( 3)
mousie	mousey の別形	..... 1, ( 2)
mousikie	幼児語	..... 1

## sheep ヒツジ .....34, ( 70)

sheep	ヒツジ	.....14, ( 22)
lamb	子ヒツジ	.....12, ( 33)
ram	去勢されていない雄ヒツジ	..... 4, ( 11)
ewe	雌ヒツジ	..... 1
lambkin	lamb の幼児語	..... 1
lammie	lamb の幼児語	..... 1
tup	雄ヒツジ, ram と同じ	..... 1

## robin ヨーロッパコマドリ, ロビン .....23, ( 54)

robin	ヨーロッパコマドリ, ロビン	.....10, ( 24)
robin redbreast	赤胸のコマドリ。Robin は首から胸にかけて赤い色をしているためこう呼ばれる	..... 7, ( 9)
cock robin	雄の robin	..... 3, ( 11)
redbreast	上記のとおり robin のこと	..... 1
robin-a-thrush	何を指すかよくわからないが, 仮に robin のところに入れておく	..... 1, ( 8)
robinet	robin に親しみを込めて言う言い方	..... 1

## fish 魚 .....22, ( 29)

fish	魚	.....20, ( 25)
fishy	名詞で, おさかな (ちゃん)	..... 2, ( 4)

## goose ガチョウ .....21, ( 50)

goose ガチョウ .....15, ( 41)	lark ヒバリ ..... 6, ( 7)
gander 雄のガチョウ ..... 2, ( 3)	hare 大型のウサギ。ノウサギ ..... 6, ( 7)
Mother Goose ガチョウのおかあさん, ガ チョウおばさん ..... 2, ( 4)	bee ミツバチ ..... 5, ( 8)
goosey gander 幼児語的に雄のガチョウを 言う ..... 2	deer シカ ..... 5
duck アヒル .....20, ( 40)	buck 雄ジカ。他の動物の雄も指すことがあ る ..... 2
duck アヒル .....16, ( 34)	deer シカ ..... 1
drake 雄のアヒル ..... 3, ( 5)	doe 雌ジカ。他の動物の雌を指すこともある ..... 1
duckling アヒルの子 ..... 1	hart 雄ジカ。特に赤くて5歳以上のもの ..... 1
rat 大型のネズミ。クマネズミ, ドブネズミなど .....20, ( 44)	dove ハト。小型のハト。ドバト。Pigeon とはつき り区別はできない ..... 5
wren ミソサザイ .....14, ( 25)	fly ハエ ..... 5, ( 7)
crow カラス。カラス属またはカラス科の鳥。特に rook, carrion crow を指す。ここでは rook と carrion crow は別の見出しを立ててある .....16, ( 27)	peacock クジャク ..... 5, ( 8)
crow 同上 .....15, ( 26)	snail カタツムリ ..... 5, ( 7)
cock crow 雄のカラス ..... 1	bumble-bee マルハナバチ ..... 4, ( 5)
owl フクロウ, ミミズク .....12, ( 13)	humble-bee マルハナバチ, bumble-bee と 同じ ..... 3, ( 4)
frog カエル .....11, ( 45)	bumble-bee マルハナバチ ..... 1
frog カエル ..... 9, ( 42)	eagle ワシ ..... 4
frog-ee 幼児語。カエルさん ..... 1	herring ニシン ..... 4
froggy frog の幼児語 ..... 1, ( 2)	lion ライオン ..... 4, ( 5)
monkey サル ..... 8, ( 17)	parrot インコ, オウム ..... 4
monkey サル ..... 7, ( 16)	parrot インコ, オウム ..... 3
ape サル, 特に類人猿 ..... 1	poll parrot 飼いならされた parrot ..... 1
donkey ロバ ..... 8, ( 11)	pigeon ハト。大型のハト。イエバト。Dove とはっ きり区別できない ..... 4
donkey ロバ ..... 6, ( 9)	rook ミヤマガラス ..... 4, ( 6)
ass ロバ。ニュアンスの差はあるが指し示す ものは donkey と同じ ..... 2	bear クマ ..... 3
cuckoo カッコウ。Little cuckoo といえばホトト ギスのこと ..... 7, ( 10)	beast 獣, 四足獣 ..... 3
goat ヤギ ..... 7, ( 8)	raven ワタリガラス ..... 3, ( 4)
goat ヤギ ..... 4	shell 貝(殻) ..... 3, ( 6)
nanny-goat 雌ヤギ ..... 2	sea-shell 海の貝(殻) ..... 1, ( 3)
billy-goat 雄ヤギ ..... 1, ( 2)	sea-shore shell 海辺の貝(殻) ..... 1
sparrow スズメ ..... 7, ( 8)	shell 貝(殻) ..... 1, ( 2)
sparrow スズメ ..... 5	spider クモ ..... 3, ( 5)
cock sparrow 雄のスズメ ..... 2, ( 3)	swan ハクチョウ ..... 3, ( 10)
fox キツネ ..... 6, ( 18)	whale クジラ ..... 3
fox キツネ ..... 5, ( 15)	bat コウモリ ..... 2, ( 3)
foxy 名詞。Fox の幼児語 ..... 1, ( 3)	beetle カブトムシ, カミキリムシ, クワガタムシな どの甲虫 ..... 2, ( 8)
	blackbird クロウタドリ ..... 2, ( 3)

goldfinch	ヨーロッパゴシキヒワ	2, ( 3)	partridge	ヤマウズラ	1, ( 12)
kite	トビ	2	pheasant	キジ	1
ladybird	テントウムシ	2, ( 3)	salmon	サケ	1
<div> <div>burnie-bee</div> <div>テントウムシ</div> <div>1</div> </div>			serpent	ヘビ	1
<div> <div>ladybird</div> <div>テントウムシ</div> <div>1, ( 2)</div> </div>			shrimp	エビジャコ, 小エビ	1
linnet	ムネアカヒワ	2	stork	コウノトリ	1
magpie	カササギ	2	swallow	ツバメ	1
oyster	カキ	2	thrush	ツグミ	1
pony	ポニー	2	tiger	トラ	1
rabbit	小型のウサギ。イエウサギ	2, ( 3)	toad	ヒキガエル	1
snipe	シギ, チドリ	2	turtle dove	キジバト, コキジバト	1, ( 11)
turkey hen	シチメンチョウの雌	2, ( 4)	vulture	ワシタカ科の大きな猛禽	1
unicorn	一角獣, ユニコーン	2, ( 3)	weasel	イタチ	1, ( 3)
wagtail (wag-tail)	セキレイ	2	woodchuck	ウッドチャック	1, ( 4)
zebra	シマウマ	2	woodcock	ヤマシギ	1
ant	アリ	1	worm	虫, ミミズ, いも虫, 青虫, 毛虫など	1, ( 2)
blackey top	何を指すかはわからないが鳥を指す ことが文脈から推測される	1	以上のとおりである。		
bullfinch	ウソ	1	上にあげたものを哺乳類, 鳥類……に分類した場合, それぞれ何種類登場したかを次に示す。内訳の中のものを 数えないときの数をかっこなしの数字で, 数えた ときの数字をかっこ付きの数字で示す。		
butterfly	チョウ	1	哺乳類	32, (92)	
canary	カナリア	1	鳥 類	44, (67)	
carrion crow	ハシボソガラス	1	爬虫類	2, ( 2)	
cockle shell	ザルガイ (の殻)	1	両生類	2, ( 4)	
crane	ツル	1, ( 3)	魚介類	12, (15)	
cricket	コオロギ	1	昆 虫	11, (14)	
crocodile	コロコダイル。広くワニ	1	架空動物	2, ( 2)	
dormouse	ヤマネ	1	その他	1, ( 1)	
dragon	龍	1			
eel	ウナギ	1			
elephant	ゾウ	1			
flea	ノミ	1, ( 2)			
four legs	四足	1, ( 2)			
guinea pig	テンジクネズミ, モルモット	1			
hawk	タカ	1			
hedgehog	ハリネズミ	1, ( 2)			
heron	アオサギ。サギ類	1			
lobster	ロブスター	1, ( 6)			
mackerel	サバ	1, ( 2)			
maggoty maggot	ウジの形容詞形	1			
martin	イワツバメ	1			
minnow	小魚	1			
mocking bird	マネシツグミ	1, ( 2)			
mole	モグラ	1			
otter	カワウソ	1			

## 5. 結果の考察

結果についてまず第一に気付くことは動物名を表す語の出現頻度の高さである。このことは動物についてだけ見ていたのではわかりにくい。植物の唄と比較するとはっきりする。Mother Goose に現れる植物で一番多いのは apple であり、唄の数にして 37, apple という語の現れる回数にして 53 である。二番目は plum で、唄の数、語の使用回数ともに 20 である。これと比べると動物の登場する唄がいかに多いかがわかる。動物の 1 位は cat の 85 (208) であるから植物の 1 位より相当大きな数字になっている。1 位の cat 以下も 7 位

の bird までは apple より数字が大き。ひとつの唄の中で同じ動物名がくり返し使用されることが多いので、動物名の合計の使用回数は非常に多くなっている。例をあげると、

There was a frog lived in a well,

Kitty alone, Kitty alone,

There was a frog lived in a well,

Kitty alone and I.

There was a frog lived in a well,

And a farce mouse in a mill,

Cock me cary, Kitty alone,

Kitty alone and I

(205 の第 1 連)

この唄は第 9 連まであり同じような調子で続く。ここにあげた第 1 の部分だけでも Kitty という語が 5 回, frog という語が 3 回使用されている。このようにひとつの唄の中に同一の動物名が頻繁にくり返される唄が多いことから動物名の合計の使用回数が大きくなっている。植物の登場する唄でこの種のくり返しがあるものは少数である。全体として Mother Goose の唄には動物の現れる唄のほうが植物の唄より相当多い。これはとりもなおさず、英国伝承童謡が動物に強い関心を示していることをもの語っている。

それではどのような動物が Mother Goose に登場するかというと、大部分は Mother Goose の唄の成立した頃の英国に家畜として飼育されていたか、野生に生息していたか、どちらかの動物である。その意味では順当な顔触れと言える。頻度の上位を占める cat, horse, pig, dog, cow, chicken, sheep, goose, duck は言うまでもなく、英国の生活と切っても切り離せない代表的家畜であり、これらの動物に英国人の関心が高いのは当然である。その他の動物もたいていは英国に生息している野生動物か家畜であり、中でも頻度の高い mouse, robin, rat, wren, crow, owl, frog, donkey, cuckoo, goat, sparrow, fox, lark, hare などは他のもっと頻度の低い動物より、個体数が多い、人家や耕作地や牧場近くによく姿を見せるなどの理由で英国人の目に触れる機会が多かったのではないかと思う。さもなければ、迷信や言い伝えとの関連も考えられるが、単純に、よく見られる動物だから Mother Goose の唄にも数多く読まれたと考えると真実からそう遠く離れないであろうと思う。

Mother Goose の唄にみられる動物への関心の強さと関連して注意しておくべきことは、英国人が民族として昔から動物に非常に強い関心を持っていたという

ことが、同じ種の動物でも(それは主に家畜であるが)、幼いか成熟しているか、雌か雄かなどによってまったく違う名で呼ぶことに表れているということである。同じウシでも、雌 cow, 去勢されていない雄 bull, 去勢されている雄 ox, 幼いもの calf と互いにまったく語源的関連のない別の語を用いる。日本語なら必ず「ウシ」という語に接辞を付けて言う以外に方法はない。このような例が多い(具体的には「4. 結果」に記載されている動物のうち、内訳付きの動物の多くがこういう例である)ということは昔の英国人が民族としていかに動物とかかわりあいが深かったかをもの語っている。言語そのものに動物への関心の強さがすでに反映されていて興味深い。ちなみに、日本語においては、魚と植物に同様な例がみられる。ブリが成長するに従い、イナダ、ハマチ、ワラサなどと呼ばれる例と、英語でみな rice で済ませるところを、イネ、コメ、メシなどと言いつける例などがよく知られている。これは日本民族が漁労、稲作民族だったことを示唆する例と考えられる。

Mother Goose の唄において出現頻度の低い動物もやはり英国産のものがほとんどであるが、tiger, elephant, monkey, lion などは野生には生息していなかったと思う。サーカスのようなものでよく見るか、おとぎ話や寓話でなじみの動物であったのであろう。架空の動物 unicorn と dragon は英国に伝わる重要な伝説や神話に登場する動物であり、そういうことを背景にして童謡に登場したものと思われる。

登場する動物の種類別では鳥類と哺乳類が多い。とりわけ鳥類の多いのが注目される。爬虫類、両生類はもともとそれほど種類が多くないように思うから、登場回数が少ないのは不思議ではないとしても、魚介類や昆虫の登場の仕方が少ないように感じられる。

昆虫については P. Milward が次のように述べている。「セミを除いては、日本にいる虫なら大抵はイギリスでも見られる。(中略)とはいえ、夏はどこを見ても虫だらけになる日本に比べると数は遙かに少ない」<sup>5)</sup>。このことばを信じるとすれば、Mother Goose に昆虫があまり現れないのは普段英国人が昆虫と接する機会が少ないからである。英国は地理的条件から気候が涼しい。そのため日本とは植生がかなり違い、一般に植物の絶対量が少ない。昆虫は涼しく植物の少ないところには住みにくい。したがって、英国人はあまり昆虫となじまない、と考えられる。

魚介類の唄が少ないのも、やはり、日常、食卓にあ

まり頻繁に魚介類がのらなかったためではないかと思う。英国はまわりが海であるが牧畜による哺乳類の肉や乳製品それと家禽の肉のほうにより強い関心があったのであろう。

哺乳類と鳥類は他の動物と違い恒温動物であるから寒冷の地にも適応しやすい。したがって英国のように気温の低い国にも住むことができる。英国人が哺乳類と鳥類に非常に関心を示すのは、まず第一に家畜、家禽として飼育していたからであり、第二に狩猟の獲物としていたからであると思う。この意味においては実用的目的から動物に関心を示したと言える。ただし、これだけで英国人の哺乳類と鳥類に対する関心の強さを説明しきることはできないであろう。英国の自然環境を考えると、草の丈もあまり高くなり、平坦な地がはてしなく続くその単調さの中にあっては何か動くもの、何か声を出すものは人の心に安堵感と、単調さを打ち破る新鮮さをもたらしのではないであろうか。したがって親しみもわく。植物がおとなしく、空気が澄んでいるという自然環境においては、動物の姿が目に入りやすく、鳥の鳴き声も響き渡ることであろう。英国人が哺乳類と鳥類に特別の愛着を示す理由として、それらが英国人の心をなごましてくれるからという理由があることを見逃すことはできない。実際、Mother Gooseの動物の唄は、ときには正直に、ときには荒っぽく、ときにはおかしく、動物への親近感を唄ったものばかりである。

## 6. お わ り に

英国の自然環境、風土といったものがかなり忠実にMother Gooseの唄における動物名の使われ方に反映している。わずかに千百余の伝承童謡に英国のひとつの姿が映し出されているのは興味深い。

英国人も日本人同様季節の移り変わりに敏感だと言われるが、何によってそれを感じとっているのであろうか。今回Mother Gooseに登場する動物を調べてみて、その有力な候補が鳥であると感じられた。昆虫は日本におけるほど注意を払われていない。植物も本質的には日本におけるほど季節感と結びつけられていないようである。その中であって鳥には非常に強い関心が見られている。鳥のあるものは渡りをする。したがって季節を示す重要な指標となり得る。いずれにしても、英国人は日本人より鳥に対する親近感が強いようである。

## 註

- 1) 拙論「マザー・グースの中の植物」(『幾徳工業大学研究報告』A 人文社会科学編 第11号, 昭和62年)。
- 2) Oxford University Press, 1985.
- 3) Kenkyusha, 1985.
- 4) かつこの中の数字は *A Handbook of Nursery Rhymes Volume I Text* の唄番号である。以下唄の引用例に関しては同様である。
- 5) 『イギリス風物誌』大修館書店, 1985年, p. 53.

## 参 考 文 献

- Opie, Iona, and Peter. *The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes*. Oxford: Oxford University Press, 1984.
- . *The Oxford Nursery Rhyme Book*. Oxford: Oxford University Press, 1985.
- Miyakawa, Yoshihisa and Toyama, Shigehiko. *A Handbook of Nursery Rhymes*. Tokyo: Kenkyusha, 1985.
- The Reader's Digest Association. *Field Guide to the Animals of Britain*. London: The Reader's Digest Association, 1985.
- . *Field Guide to the Birds of Britain*. London: The Reader's Digest Association, 1985.
- . *Field Guide to the Butterflies and Other Insects of Britain*. London: The Reader's Digest Association, 1984.
- Forey, P. and Fitzsimons, C. *An Instant Guide to Insects*. Bonanza Books: New York, 1987.
- Perrins, C.M. and Middleton, A.L.A. ed. *The Encyclopedia of Birds* (Unwin Animal Library III). George Allen and Unwin: London, 1985.
- Sykes, J.B. ed. *The Concise Oxford Dictionary of Current English* (sixth edition). Oxford University Press: Oxford, 1979.

マクドナルド, D.W. ほか編, 今泉吉典ほか監修『動物大百科』(全20巻)平凡社, 1986年~1987年。  
 平原 毅著『英国大使の博物誌』朝日新聞社, 昭和63年。  
 土居光知・福原麟太郎・山本健吉監修, 成田成寿編集

- 『英語歳時記 普及版』研究社出版, 1983 年.
- 町田嘉章・浅野健二編『わらべうた —— 日本の伝承童謡』(岩波文庫) 岩波書店, 1983 年.
- P. ミルワード著『イギリス風物誌』(スタンダード英語講座 11) 大修館書店, 1985 年.
- ピーター・ミルワード著, 安西徹男訳『ミルワード氏の動物記』新潮社, 1977 年.
- ピーター・ミルワード著, 安西徹男訳『ミルワード氏の昆虫記』新潮社, 1976 年.
- 鯖田豊之著『肉食の思想』(中公新書) 中央公論社, 昭和 61 年.
- 筑波常治著『米食・肉食の文明』(NHK ブックス 85) 日本放送出版協会, 昭和 61 年.
- 中村禎男著『日本人の動物観 —— 変身譚の歴史』海鳴社, 1984 年.
- 平野敬一著『マザー・グースの唄 —— イギリスの伝承童謡』(中公新書) 中央公論社, 昭和 47 年.
- 平野敬一著『マザー・グース童謡集』(エレック選書) 英語教育協議会, 1986 年.
- 平野敬一著『続マザー・グース童謡集』(エレック選書) 英語教育協議会, 1984 年.
- 渡辺茂編著『マザー・グース事典』北星堂書店, 昭和 61 年.
- 藤野紀男著『マザー・グース案内』大修館書店, 1987 年.
- 藤野紀男著『マザー・グースの唄が聞こえる』朝日イブニングニュース社, 昭和 59 年.
- 藤野紀男著『マザー・グースの英国』朝日イブニングニュース社, 昭和 60 年.
- 藤野紀男著『マザー・グースのカレンダー 唄でつづる 12 カ月』原書房, 1988 年.
- 吉竹迪夫著『訳詞と解説 まざー・ぐーす』(上巻・下巻) 中教出版, 昭和 57 年.
- 谷川俊太郎訳, 和田誠絵, 平野敬一監修解説『マザー・グース』(1~4) (講談社文庫) 講談社, 昭和 56 年.
- 平野敬一「マザー・グース語彙の特性 —— archaism, dialecticism その他 ——」(寺澤芳雄・竹林 滋編『英語語彙の諸相』研究社出版, 昭和 63 年).
- 平野敬一「マザー・グースの英語」(多田幸蔵監修, 谷本誠剛編集『児童文学とその英語』大修館書店, 1988 年).
- 池田広昭「マザー・グースの中の植物」(『幾徳工業大学研究報告』A 人文社会科学編第 11 号, 昭和 62 年).